

大賞

時空を超えて人を繋げる本

ながみ くにこ
永見 邦子さん

I先生は、関東から父の故郷山陰への進路変更の相談に向き合ってくれた恩人だ。先生の歴史の授業は、各時代を舞台にした文学を紹介し教科書の行間も伝えてくれたので、慣れない土地での学生生活の楽しみは書店巡りになった。米子駅から公会堂前まで7軒の書店をハシゴするのだ。そこで出会ったのが阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男－伝説とその世界』（筑摩書房）。子供時代親しんだお伽話の背景が歴史的事実だった衝撃と、著者の緻密な調査に圧倒された。数年後、結婚式に招待した先生との話題は最近読んだ本だった。先生もかの本を読まれていて、一瞬で高校時代に戻ったようだった。今年約30年ぶりに先生と会った。あの時の話をしたら「よく覚えているよ」と微笑んでくれた。東京と米子の書店で買われた本が時空を越えて大切な人と繋げてくれたのだ。夕焼の中、お茶の水駅の改札を超えてゆく、少し小さくなったI先生の背中を幸せな気持ちで見送った。